



飯塚・権沢への街道口だった飯塚口跡周辺



双葉公園近くに残る三の丸お濠跡と思われる場所



いまも駅西エリアを見守るように建つ寿稲荷神社



最上義光公が出羽合戦で本陣を置いた稲荷口跡周辺



「十日市」といわれた最も古い市が開かれたあたり(山形テルサ〜NTTDコモビル間)

「香澄町字六十里越」
出羽三山の参詣者が通る
街道の起点となった地

城南公園の前の通りをさらに南に行く、また標柱があるとか。
松本 山形三中の前に「香澄町字六十里越」の標柱があります。ここは、出羽三山の参詣者などが通る六十里越街道の起点となったところなんです。

そこから南に下っていくと稲荷口で、最上義光公が上杉軍との出羽合戦で本陣を置いた場所です。ここに、後の城主鳥居忠政公が山形城の鎮護の神として城内に移した寿稲荷神社がありますよ。
山形城の南の備えとして重要な場所だったことがわかりますね。
松本 最上氏時代の前から、山形テルサの北西方向に、移転する前の勝因寺がありました。ここから東へ、山形駅東口からすぐ南にある正楽寺に向かう参道があり、この通りで十日ごとに市が開かれて、大変な賑わいだったようです。正楽寺付近から「市神石」が見つかって、山形で最も古い市と伝えられているんですね。
駅西エリアは、昔も人の行き交う場所だったんですね。歩いてみて、歴史の息づかいを感じました。



特集 巻頭

日々変化する 駅西エリアの昔と今を ぶらりと散歩

「山形駅西エリア」

霞城公園の南部・西部に広がる山形駅西エリア。山形城三の丸のあった歴史の息づくまちであり、新都心として山形の新しい未来を見つめる街。ぶらりと歩いて、街の「昔と今」を訪ねました。

取材／渡辺和志 デザイン／星川忠平 撮影／奥山茂俊 文／たなかゆうこ



城南公園前に「香澄町字霊石」の標柱



山形三中の前に「香澄町字六十里越」の標柱

「さくら編集室」 ボランティアで最上義光歴史館サポーター・霞城まちなみ案内人を務める松本芳雄さんに、「旧町名標柱」を巡りながら駅西エリアを案内していただきました。

歴史のドラマを秘めた
「香澄町字南追手前」と
「香澄町字霊石」の名

「旧町名標柱」というのは？

松本 戦後、街の整備に伴って消えた旧町名を伝えようと、1989年に山形市が市制100周年を記念し

て、市内47か所に設置したんですよ。
霞城公園の南大手門には「香澄町字南追手前」の標柱がありますね。
松本 地図には南大手門とありますが、以前は南追手門、その南の地区を「南追手前」といいました。
南追手門は、「疑わしい武士を成敗するため、武者が追いかけて先回りする近道の門」です。山形城で合意した書状を持ち、東大手門から出て江戸に向かう。しかし、その武士が信用できない場合、密かに南門から武芸にすぐれた家来を走らせ、三の丸の出口吹張口から追いかけて、五日町で成敗したというんですよ。



最上義光歴史館サポーター・霞城まちなみ案内人松本芳雄さん

歴史のドラマのようですね。

松本 その南追手門から大通りを越えて、城南公園のところに「香澄町字霊石」の標柱があります。この「霊石」の地名には、山形の紅花商人の若者と京都の小町娘との悲しい物語が伝えられているんですね。